

仁徳天皇のプロフィール

メモ)鉄本 (2022.06.22)

来館者からのよくある質問に、「仁徳天皇はどういう人なのか」、「何をやった人なのか」、「実在の人物ですか」などがあります。そこで、「記紀」を手掛かりにプロフィールをまとめてみました。(あくまで伝承としてご理解ください。)

1. 記紀での表記名

*「仁徳天皇」は漢風諡号。奈良時代の淡海三船が選定したものです。ここでは便宜上「仁徳天皇」を使います。

*記紀では和風諡号として、「日本書紀」:大鷦鷯(おおさざき)、「古事記」:大雀(おおさざき)と記述。

← これらの読みは訓読みです。諱(いみな)として記紀編集時に当てられた漢字です。漢字の訓読みは6世紀後半(注)以降なので、仁徳天皇の時代に、これらの漢字が使用されているとは考えられません。

仁徳天皇を称える「古事記の歌謡」の原文では、意富佐邪岐(おほさざき)と表記されています。5世紀には固有名詞については万葉仮名のように一字一音で表記され、読みは上代音韻になります。(例:サ=tsa 破擦音)

【参考】訓読みの初見は、岡田山一号墳出土鉄剣銘(松江市 全長24mの前方後円墳 6C 構築)

「各田卍臣」(=省画用法による額田部の表記 額を「ぬか」と訓読み) (下の写真参照)

額田部臣とは、応神天皇皇子の額田大中彦皇子の名代(なしろ)で、皇子に奉仕する人・組織。



2. 王宮

仁徳天皇の王宮は、難波高津宮(なにわのたかつのみや)とあり、伝承では大阪市天王寺区餌差町10-47(府立高津高等学校付近) 右の写真は、高津高校の正門を入った場所にある石碑。



3. 業績

- ① 部民の設定: 部民は私有民の総称。朝廷全体に隷属するものを品部(しなべ)、王族に奉仕するためのものが子代・名代、諸豪族に隷属するものを部曲(かきべ)という。仁徳7年に壬生部(乳部とも書く。大王家の子を養育する部)と葛城部(皇后磐之媛を支える部)を設定。初見は大兄去来穂別=履中天皇のために定めた部)と葛城部(皇后磐之媛を支える部)を設定。
- ② 茨田堤(まんだのつつみ)築造: 淀川の氾濫を防ぐため仁徳11年に茨田堤を築堤。式内社堤根神社(門真市宮野町)に堤の一部が残るといふ言伝えがある。(右の写真)
← 実際の築堤時期は6, 7世紀と見られている。
- ③ 茨田屯倉設置: 茨田堤により近辺の開発が進み、屯倉(みやげ)が置かれた。併せて、舂米部(つしきねべ)を置いて収穫した米穀を精米。
河内の開発: 仁徳11年に難波の堀江を開削、13年に和珥池(わにのいけ 場所不明)築造、横野堤(大阪市生野区巽の式内社横野神社付近の旧大和川か?)、14年に猪甘津に架橋(生野区猪飼野付近)、感玖(こむく)大溝の開削(古市大溝はこの一部という説もある。次頁の図参考)
- ④ 3年間の租税免除 神功・応神期に大規模な朝鮮半島への出兵によって国力が低下したことにより、「民の



竈に煙が立っていない」事態が生じ、仁徳天皇が3年間の租税を免除したという故事。さらに、インフラ整備によって、開発が進み国力が向上した時代であったこと。→聖帝伝説の誕生

- ⑤ 外交関係 仁徳 12 年:高麗使節の来朝<高句麗が鉄の盾と的を献上。軍事力の誇示と駆け引き>
- 仁徳17年:新羅の朝貢<新羅が朝貢してこず軍事的圧力。新羅は貢物を献上>
- 仁徳42年:百済との国境交渉<紀角宿禰を百済に派遣し百済との間で任那の領域を見直す>
- 仁徳53年:新羅遠征<またも新羅が朝貢せず、軍隊を送り新羅と交戦。4つの邑の人民を拉致し帰還>
- 仁徳58年:呉・高麗の朝貢<倭王讃(讃の比定には諸説ある)として中国王朝との通交>

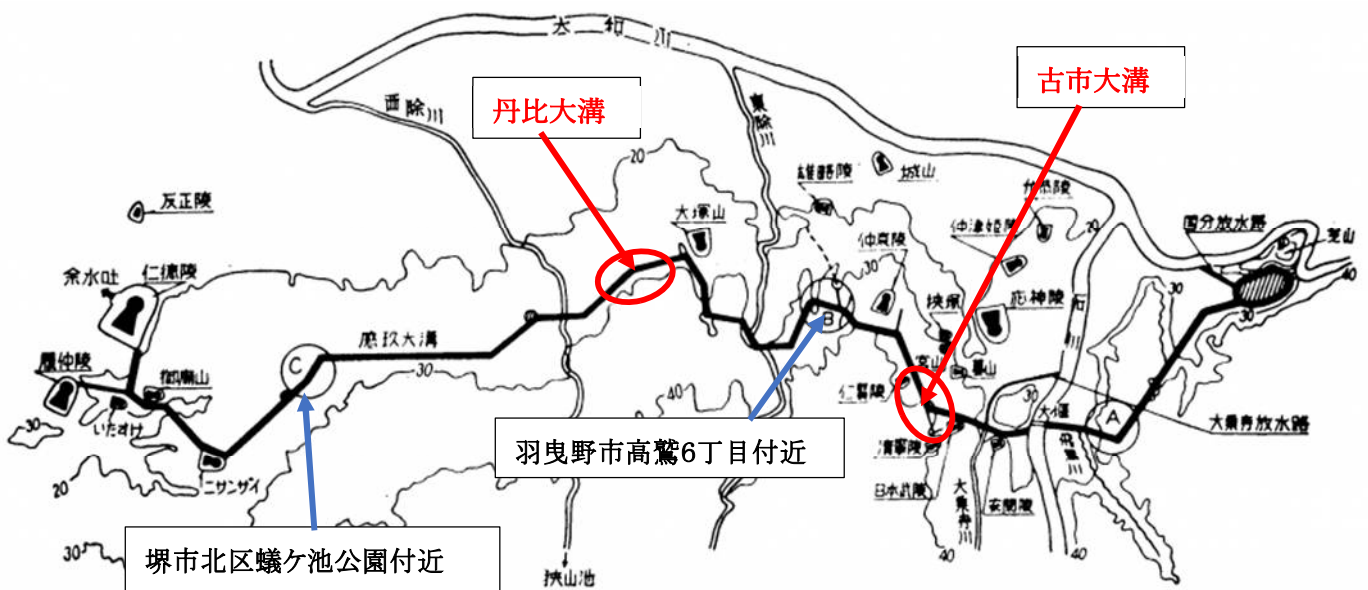
4. 応神天皇の後妃と皇子 (○数字は年齢順)

- ・ナカツヒメ(皇后) = ④オオサザキノミコト、ネトリノミコト
- ・タカギノイリヒメ(妃) = ②ヌカタノオオナカツヒコノミコト、①オオヤマモリノミコト、③イザノマワカ
- ・ミヤヌシヤカハエヒメ(妃) = ウジノワキイラツコノミコ
- ・オキナガマワカナカツヒメ(妃) = ワカヌケノフタマタノミコ
- ・イトイヒメ(妃) = ハヤブサワケノミコ

5. 「感玖大溝(こむくのおおみぞ)」の伝承

「日本書紀」仁徳天皇14年条に、“又掘大溝於感玖、乃引石河水而潤上鈴鹿・下鈴鹿・上豊浦・下豊浦四處郊原、以墾之得四萬餘頃之田。故、其處百姓、寛饒之無凶年之患”(感玖に大溝を掘る。石川の水を引いて、上鈴鹿・下鈴鹿・上豊浦・下豊浦の野原を潤し220万坪の田を得た。その為、百姓は豊かになり凶作の心配はなくなった。)とあります。地名の推定地は次の通りです。(「頃」:中国の周代では1頃=182アール)

- ・感玖=大阪府南河内郡河南町辺り、或いは、^{かんこ}咸古神社(龍泉寺の鎮守社。富田林市龍泉。河内国石川郡)辺り
- ・鈴鹿=不明
- ・豊浦=東大阪市豊浦町



感 玖 大 溝 推 定 路 線

上図は、出典:「南河内の運河網」湯川清光 農業土木学会誌第 52 巻愛 10 号 に加筆

【参考文献】・ミネルヴァ日本評伝選「仁徳天皇」若井敏明 ミネルヴァ書房 2015

- ・「南河内の運河網」湯川清光 農業土木学会誌第 52 巻第 10 号
- ・古代学論究「列島における5世紀の文字表記」川崎晃 慶応義塾大学出版会 2012
- ・令和4年度春季企画展「八雲立つ出雲の至宝」奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2022
- ・「松原市文化財分布図」松原市教育委員会 2013
- ・Wikipedia